

【編集後記】「巨大地震に備えよ」

昨年末、政府の中央防災会議は、北海道沖から岩手県沖にかけての千島海溝、日本海溝で起きる2つの巨大地震について被害想定をまとめた。千島海溝でM 9.3の地震が冬に発生した場合の津波等による死者は10万人、日本海溝では同じくM 9.1で19万9,000人と想定されている。この数値は、深夜かつ積雪や凍結で避難が困難な最悪のケースでの推計値だが、これに加えて低体温症で亡くなる人がそれぞれ2万2,000人、4万2,000人生じるとされ、寒冷地特有の悪条件が被害の拡大をもたらすことを示している。10年前に公表された南海トラフ地震については最大死者数が32万人と見込まれたが、関係の沿岸地域では津波避難タワーや避難路の整備が進められている。今回の試算では、国や自治体がこのような対策を講じ、住民の避難率が高まれば、死者数を8割削減できるとも指摘されている。この地域では3～400年の間隔で巨大地震が発生しており切迫した状況にあるとされる。東日本大震災の教訓を生かし、官民挙げての心構えと対策が必要だ。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2022年2月号（通巻42号）

■発行日 令和4年2月15日

■発行所 一般財団法人日本防火・防災協会

■編集発行人 高尾 和彦

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19（ヤクルトビル内）

TEL 03 (6280) 6904 FAX 03 (6205) 7851

URL <https://www.n-bouka.or.jp>

■編集協力 近代消防社